一般部門 19

記紀の道
～地域の宝をつなぎ心を育む～

宮崎県 西都市

妻北地域づくり協議会・西都市

1 社会資本の概要

西都市には、一ツ瀬川の河岸段丘上に三百基余りの古墳が点在する日本最大級の西都原古墳群があります。平成 30 年に日本遺産に認定され、年間百万人が訪れる県内有数の名所です。また、河岸段丘の中段域には、日本最古の歴史書「古事記」「日本書紀」に記された日向神話にまつわる伝承地が点在しています。これらの伝承地をめぐる道が「記紀の道」です。平成 17 年に整備計画が策定され、点在していた伝承地や、巨木や水辺などの自然が 1 本の道でつながり、まるで大きな公園の中を歩いているような道が整備されました。

「記紀の道」沿いに流れる逢初川（あいそめがわ）

視線の先には巨木となった伝承地の杜

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

妻北地区の豊かな自然や伝承地は埋もれ、地元住民や来訪者が憩いくつろぐ場がないなど、十分な活用がされていない状況でした。そこで、「記紀の道を語ろう会」などの地域住民との意見交換の場を設け、地域の魅力や大事にしたいことをみんなで共有することから始めました。地域住民との活動は延べ 59 回となり、現在も続いています。

散策路の整備が半分を過ぎた平成 25 年に「妻北地域づくり協議会」が発足し、住民主体の活動が始まりました。活動の１つとして、地域の豊かな自然やお宝を再認識すること、一緒に歩いて仲良くなること、健康になることを目的とする「記紀の道を歩こう会」を開催しています。歩く途中の伝承地では、記紀の道のことを勉強した小学生がガイドを行います。これまで７回開催し、延べ 2000 人が参加しました。小学校と連携し、学びや体験の場として「記紀の道」が活用されています。

妻北小学校４年生による
神話の寸劇（伝承地ガイド）

古代米の田植え
記紀の道沿いで田んぼの風景が蘇った

古代米の収穫　人の営みを感じる風景

3 活動の成果や波及効果等

平成 29 年から始まった古代米の栽培は、近所の農家や JA 青年部の協力を得て実現しました。地元の小学生に声をかけ、田植えから稲刈り、餅つきまでを体験します。神話の伝承地の前で、古代米を栽培し、稲を天日干しする手間のかかる作業によって、見ることのできる景観は、「記紀の道」が地域の方によって大事にされている証とも言えます。

田植えと収穫には、古代人に扮した「西都古墳まつり」のスタッフも一緒に参加しています。収穫したお米は、まつりの中で古代米ぞうすいとして振る舞われ、脱穀して残ったわらは、地域の神社のしめ縄に使われます。１つの活動で、子どもの教育、地域住民との交流、景観づくり、地域のまつりや神社との連携など、よい繋がりが生まれています。

さらに、地域住民との活動は、地場産の杉材を使って整備したベンチや柵のメンテナンスや、蛍が生息しやすい環境づくりなどにも広がり、「記紀の道」を通して地域への愛着が育まれています。

昔の道具を使っての脱穀作業

ネコヤナギ植栽やベンチ設置

喜びの声

受賞者

妻北地域づくり協議会

コメント

今回の「手づくり郷土（ふるさと）賞」受賞は大変光栄に受け止めています。過去７年間の私どもの活動実績が評価されたからです。市民の宝である「記紀の道」に関連した活動をこれからも継続し、各部の協力を得て更なる充実を図って参りたいと思っています。

活動の内容

（総務広報部）記紀の道に関係した活動を広報紙に掲載、古墳まつりの支援
（健康福祉部）ウォーキング大会
（教育文化部）伝承地ガイド教育、田植え～餅つき大会まで（小学生）
（生活環境安全部）クリーン活動 球根の植栽

活動の経緯

平成 25 年　妻北地域づくり協議会設立
　　クリーン活動
　　ウォーキング大会
　　小学生によるワンポイントガイド
平成 26 年　古墳まつり（たいまつ行列）支援
平成 27 年　球根の植栽（彼岸花・スイセン）

所在地

宮崎県西都市大字三宅

活動主体及び連絡先

妻北地域づくり協議会
（ 0983-30-3090 ）

対象となる社会資本

逢初川歩行者専用道路
※管理者：宮崎県西都市

記紀の道無料ガイド
10:00 ～ 15:00（月曜休み）
連絡先（このはな館案内所）
090-9728-2545